

東京での桜の見頃は過ぎつつありますが、暖かく過ごしやすい日が続いています。金山の桜もそろそろ、満開を迎える頃ですね。

【東京金山会総会に向けて】

3月26日 役員会を開催しました。いよいよ6月19日（日）に開催がせまる、総会に向けての準備の最終チェックが、今回の目的です。製作物の確認、会場での手配詳細や当日の進行を意識した細かな内容の検討や議論を行いました。

会場での総会開催は2019年以来、久しぶりとなります。まずは無事に開催まで漕ぎつけられるように、また来訪される方々に、より楽しんでいただけるよう、引き続き、取り組んでまいります。

今回の役員会では、いくつかの新たな取組や企画について、意見交換を行ないました。こちら、引き続き検討を進めてまいります。



「花見」と「観桜」

上野公園や井の頭公園といった大規模な「桜の名所」では、桜の下で大きなレジャーシートを広げての、いわゆる「お花見」の開催はありませんでしたが、都内各所へ満開の桜を観に出かける方も、今年は決して少なくなかったように思います。

近所や普段の街並みにある「桜の名所」を歩きながら見上げたり、都内の名所を歩きながら、あるいは立ち止まりスマホをかざしたりと、それぞれのスタイルで桜にふれながら楽しむ。

「桜そのものを楽しむ」という視点では、「観桜」という言葉の方から、より強く印象を受けるようにも思えます。「観桜」、新しい「桜」との向き合い方かもしれませんね。

◀東京の桜の開花宣言の基準となる標本木・靖国神社内

No.195 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



『ぼなしくん』
（柴田ケイコ/作・絵
PHP研究所）

主人公「ぼなしくん」は、脱いだパジャマはぬぎっぱなし、遊んだおもちゃも出しっぱなし、読んだ絵本は開きっぱなし、髪の毛も伸ばしっぱなしの男の子。

ある日の夜、ぼなしくんのところに「ベタベタようかい」や「むわむわようかい」「ほこりようかい」「ごちゃごちゃおばけ」が現れ、ぼなしくんはとっても困ってしまいます。

どうしたらおばけや妖怪が消えてくれるのか…。ぼなしくんは考えます。

子供が「自分からかたづけろ」きっかけをくれる絵本です。

『すばらしい人体』（山本健人／ダイヤモンド社）
人体の構造は、非常によくできている。脚は片方だけでも10kg、軽そうな腕でも重さは4.5kg。だが不思議なことに、自分の体の「部品」だけは、日常的に「持ち運んでいる」にもかかわらず、その重さを全く感じないのだ。その答えを求めると、美しく精巧な人体の仕組みが見えてくる。



『あちらにいる鬼』（井上荒野／朝日新聞出版）
作家「井上光晴」と、その「妻」、そして恋多き女性「瀬戸内寂聴」がモデルとなった物語。逃れようもなく交じり合う3人の特別な関係。「父の愛人」と「自分の母」の視点を交代させながら、愛とは何か、書くこととは何か。父の不倫を長女である著者が描ききる。話題沸騰となった一冊。



金山町
集落支援員

集落支援員に新しく菅さんが着任しました！

パワーアップして頑張ります！

初めまして！集落支援員に着任した菅一生と申します。

金山町を盛り上げ元気にするために、スポーツの力で身体と精神（こころ）から元気にする取り組みを、更に勢いづけていくために活動していきます！最上町から移住したばかりなので、町内をマラソン練習で走り回り、皆さんと挨拶を交わし、早く金山色に染まりたいです。“何かに夢中になって取り組むことができる充実した価値のある時間”を皆さんと過ごすために、アクティブなイベントをたくさん行っていきたいと考えています。町民の皆さんには、積極的に参加していただけると嬉しいです。

「Sound mind Sound body」これはスポーツブランドのスローガンです。「健全な身体に健全な精神があれかし」といった意味になります。定期的なスポーツと運動で身体を健康に保つ事で、豊かな感情を日々感じることができるという事を、私自身も皆さんと共有しながら活動していきたいと考えています。

きっとその先に、明るいエネルギーで満ち溢れた元気な町があると信じています！！どうぞよろしくお願いいたします。



かん いっせい
菅 一生 (22)
出身：最上町



春、4月。夢と希望に満ち溢れた若者がやってきました。

今年度の集落支援員、栗田と菅の「くりかん」コンビは、町民の皆さんが心身ともに健康な状態を手に入れることを目的に活動していきます。スポーツを通して地域の課題解決を進めつつ、令和5年度にはスポーツクラブを民営化するというミッションに取り組みます。その為にも、まずは足しげく各地区の公民館に通い、スポーツと笑いを届け、スポーツ好きな仲間を増やしていきたいと考えています。

「just do it !!」若者の勢いと発想に便乗し、町民の皆さんと1日1日行動してまいります。

2年目の集落支援員 栗田 伸一



Facebookで活動を発信しています！ぜひチェックしてください！

金山杉俳句会報 第四六二回



かねやま紅風会

手を合あわす社やしろの庭にはこべ咲く
早春の窓夫々それぞれに描く夢

星川 キエ子

櫻湯の花に気持が解けゆく
渦となりぶつかり合あって雪解川

岸 昭子

春風の匂ひ残して過ぎし人
日面ひおもての苔も硬し桜花

高橋 洋子

神室路の雪間に覗く草笑窪
春シヨール結び目固く同期愛

鶴沼 よし子

水嵩を日々に増しゆく雪解川
東風吹そ木の芽優しく撥はりぬ

阿部 一代

殿しかりを手練てだれに委ね鶴帰る
蘆あし牙の氣勢かきひて天付く如尖る

栗田 弥超

娘の無事を願ひ供へる春苺
春光や白髪しらがめつきり父と母
香り立つ忙しき朝のバツケ味あじ噌も

荒屋 関 喜美子

雪解の川面広める最上川
白鳥の帰る郷里北の空
コロナ風終息見へぬ春彼岸

菅越 庄司 けみ子

水の音風の声きく雛館ひなやかた
人々の山河やまがは優しく春の郷さと
恩師逝き心新たに春彼岸

七日町 青柳 キエ子

春の風恋の旅路を懐かしく
雛飾り世界平和を祈りつつ
彼岸入り父母の面影抱きしめて

七日町 柴田 栖静

燕来る生れ古巢すの懐かしく
身の病ひ不安ちらつく山桜
豪雪も今は田畑の恵み水

上台 阿部 一步